

学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

修士課程

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「修士（法学）」を授与する。

1. 法律学分野に関する高度な専門的知識を修得した学生。
2. 現代社会における多様な問題を的確に分析し、説得力のある法的議論を展開する能力を修得した学生。
3. 先行研究、外国文献等の必要な資料を渉猟し、学術的な意義のある修士論文またはリサーチペーパーを作成するための基礎的な研究能力を修得した学生。
4. 所定の年限に修士（法学）に値する修士論文またはリサーチペーパーを作成した学生。

〔凡例〕

◎＝当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することを強く推奨する科目。

○＝当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することを推奨する科目。

分類	科目群	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
コースワーク	リーガル・リサーチ	修士論文やリサーチペーパー執筆にとって不可欠な日本法の法情報の収集や文書作成に関する技能について体系的に学修する。受講者として日本語を母語としない留学生をおもに想定している。	①法情報(法令、判例および学説等)の収集および調査・分析ができる。②法情報を活用して、特定の課題についての自己の考え方の裏付けとしながら、理論的に結論を導いて文書としてまとめることができる。	○	○	◎	○
	法律学原典研究	修士論文執筆の基礎となる外国語読解能力を高めるほか、対象となる外国法に対する理解を深める。	①ドイツ語・フランス語・英語等の文献を、辞書等を用いつつも、文意を損なうことなく正確に読み解く能力を身につける。②修士論文の執筆に資する程度に、当該外国法に関する基礎的な理解や専門知識を獲得する。	○	○	◎	○
	特殊講義	各法分野・専門領域について、修士論文やリサーチペーパー執筆に必要な基礎的な素養や概念の理解を獲得する。	文献講読・対話形式の講義・調査発表などを通じて、各法分野・専門領域における共通の問題意識、問題の設定の仕方・議論枠組、主要な先行研究等について学び、修士論文執筆のために必要な基礎的素養を身につける。	◎	○	◎	○
リサーチワーク	演習	各法分野・専門領域について、受講者の問題関心に応じた諸問題を採り上げ、法的議論の展開能力等を身につける。	調査報告とそれに基づく議論という授業形式を通じて、①先行研究等の調査能力を獲得し高める。②受講者の問題関心を客観的に議論するに足りるところまで深化させる。③説得力のある法的議論を展開する能力を修得する。	○	◎	◎	○
	論文指導	指導教員との対話や課題への対応を通して、修士論文執筆に必要な能力を獲得する。	指導教員の具体的な指導を通じて、①修士論文執筆に必要な学識を深める。②外国法調査や先行研究調査の能力を獲得する。③論文執筆の作法（適切な引用の仕方、研究倫理等）を修得する。	◎	◎	◎	◎